

新たな技術の現場導入に係る過程と課題について

総務省消防庁

消防における新技術の導入に係る特殊性と課題

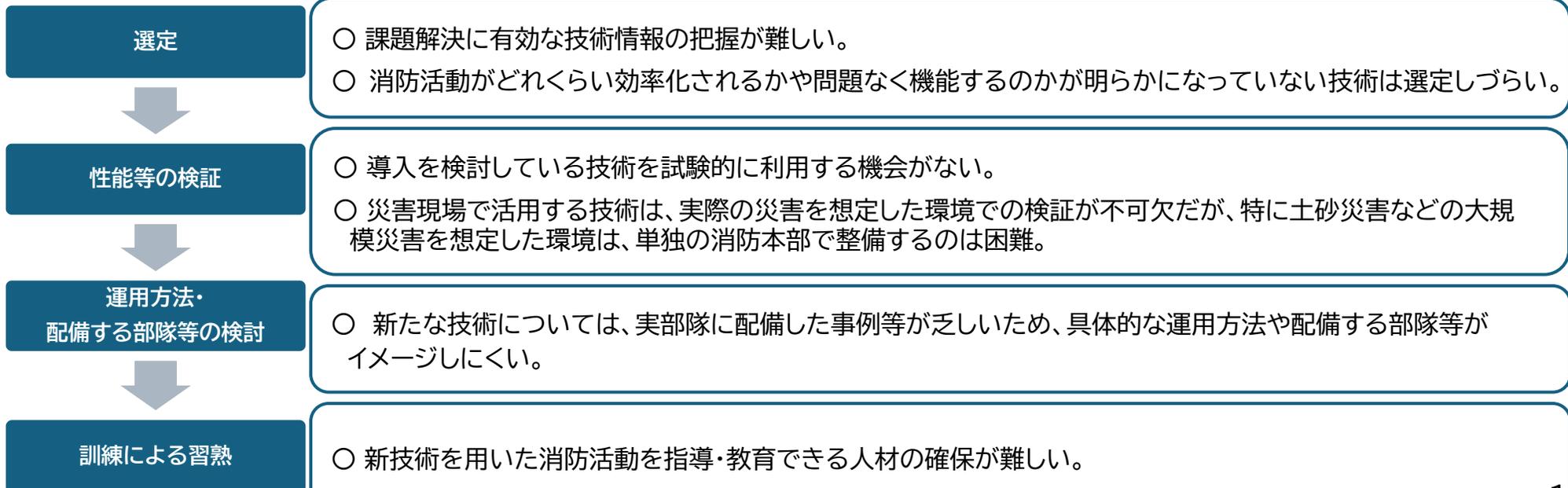
会議における議論等を踏まえ、東京消防庁と協力消防機関へヒアリングした結果をもとに整理(特に消防の現場で使用する技術関係)

消防における新技術の導入に係る特殊性

- 消防の現場で使用する技術は、要救助者や隊員の安全管理に影響を及ぼし得るものであることから、導入にあたっては、次の点が前提となる。
 - ・既存の装備・システム等と連携して、効果を発揮するものであること。
 - ・「誰が」「いつ」「どう使うか」が、運用要領により明確化されたものであること。
 - ・使用に際し職員に求められる技能等について、組織的な教育訓練により養成することが可能なものであること。
- このため、新たな技術を消防に導入する過程においては、実運用の前段階として、次のステップを経る。



導入過程で現場が抱える課題



◆ 有効な新技術の選定の円滑化に係る取組の方向性

<導入過程で現場が抱える課題> (前頁の内容を再掲)

- 課題解決に有効な技術情報の把握が難しい。
- 消防活動がどれくらい効率化されるかや問題なく機能するのかなどが明らかになっていない技術は選定しづらい。

◆ 性能等の検証の円滑化に係る取組の方向性

<導入過程で現場が抱える課題> (前頁の内容を再掲)

- 導入を検討している技術を試験的に利用する機会がない。
- 災害現場で活用する技術は、実際の災害を想定した環境での検証が不可欠だが、特に土砂災害などの大規模災害を想定した環境は、単独の消防本部で整備するのは困難。

◆ 運用方法・部隊等の検討の円滑化に係る取組の方向性

<導入過程で現場が抱える課題> (前頁の内容を再掲)

- 新たな技術については、実部隊に配備した事例等が乏しいため、具体的な運用方法や配備する部隊等がイメージしにくい。

◆ 訓練による習熟の円滑化に係る取組の方向性

<導入過程で現場が抱える課題> (前頁の内容を再掲)

- 新技術を用いた消防活動を指導・教育できる人材の確保が難しい。